

## 令和2年度 第2回 甲賀市総合計画審議会 会議録

---

- 開催日時** 令和2年10月28日（水）18：00から19：30まで
- 開催場所** 甲賀市役所別館2階 会議室202, 203
- 出席委員** 田畑会長、小泉副会長、石田委員、岩倉委員、大隅委員、金林委員、菊池委員、岸田委員、葛原委員、谷口委員、中西委員、野口委員、橋本委員、福田委員、松村(重)委員、松村(康)委員、丸山委員、安井委員
- 事務局** 野尻総合政策部長、柚口総合政策部次長、出嶋課長、徳地室長、清水係長、中嶋主事
- 会議次第**
1. 開会
  2. 協議事項
    - (1) 市民意識調査の結果、論点データ集
    - (2) 第2次甲賀市総合計画（第2期基本計画）のたたき台
    - (3) 分野別の施策（前半10分野）
  3. その他
  4. 閉会

## 1. 開会

## 2. あいさつ

田畑会長：協議事項に入る前に2つお知らせがある。1つ目は、副会長を務めていただいていた柳沢委員が異動となったため、後任の小泉孝久委員に副会長を務めていただく。

小泉副会長：よろしくお願ひしたい。

田畑会長：2つ目は本審議会の委員であった西村慧氏より、諸般の事情により解嘱願ひを提出いただいたのでお知らせする。

## 3. 協議事項

### (1) 市民意識調査の結果、論点データ集について

田畑会長：次第に基づき進めさせていただく。第2次甲賀市総合計画（第2期基本計画）について、コロナ禍で策定時期を半年程度延期する予定であったが、先行きが見えない時だからこそ、市民に対し明確なビジョンを示すため、年度内の策定を目指したいと考えている。事務局より説明を求める。

事務局：資料に基づき説明

田畑会長：市民意識調査はコロナ禍で実施したものか。

事務局：9月1日から15日に実施しており、コロナ禍における調査となっている。

田畑会長：施策に反映するためには重要なデータである。詳細な分析結果はいつ頃まとまるのか。

事務局：12月頃を予定している。

田畑会長：詳細な分析結果が出れば、速やかに公表をお願いしたい。

### (2) 第2次甲賀市総合計画（第2期基本計画）のたたき台について

田畑会長：事務局より説明を求める。

事務局：資料に基づき説明

田畑会長：委員それぞれの「新しい豊かさ」を追求する視点を皆様からお話いただければと思う。

石田委員：社会の成長が頂点に達し、世界的な規模で脱成長主義のようなものが声高に叫ばれるようになった。どこまでも成長する社会が、本当に実現可能なのだろうかという反省もある。人間的に幸せを伴った持続性を考えることは大切だと思うが、コロナ禍において、今後私たちがどのような状況に置かれるのか、先が見通せていないところもある。今後は、これまで以上に本当の意味での困窮した人たちが現れてくるのではないかと。職や活躍の場を失う人たちがさらに出てくるのではないかと。コロナ禍は約半年間続いているが、ヨーロッパでは現在がピークである。日本は法などに守られてうまくいっていると思うが、来年にはこのコロナ禍が治まっているとは思えない。社会の困窮層や貧困層の人達に対する具体的なアクセスやモニタリングなど、その解決策が特に求められてくると予測している。

岩倉委員：「新しい豊かさ」は新しく作った言葉か。どこから引用してきたのかをお尋ねしたい。アフターコロナなのかウィズコロナなのかかわからないが、このコロナ禍で人に会えなくて寂しいと感じた。文言としては理解できるが、経験したことがなく、どのようなことが「新しい豊かさ」なのか具体的な内容が想像できない。例えば「③アフターコロナを見据えた医療体制の充実」は、具体的には遠隔医療の話の思い浮かべるが、基礎自治体である市でできることなのか。

- 大隅委員：経済的な冷え込みがいつ回復するのか心配している。一時的に国からの補助金などが出て助かった部分もあるが、その影響で将来的には税金が上がったりするのではとの不安もある。他の委員と同様、これまでに経験がなく、予想できない難しい問題である。
- 金林委員：「新しい豊かさ」を10の視点で書かれている。言葉では表現できるが、実際にどうなのか不安もある。
- 葛原委員：対面での販売や展示会が少なくなっている。このコロナ禍では家族と過ごすなど、気持ちの安らぎや癒しを求めている人が増えたと思う。そのような安らぎや癒しを求めている人は精神的にうまくいっていると思うが、様々な不安を感じ、気分が下がっている人は多いはず。
- 菊池委員：人に会えなくて寂しいという残念な面もあるが、私自身は体に障害を持っており、オンラインを活用することで買い物などが楽になった。また、このような審議会に出席する際も、これまで交通機関の時間などを気にしていたが、オンラインとなって安心している面もある。
- 岸田委員：10個の視点は、「新しい豊かさ」を追求するうえで、一定網羅されていると思う。しかし、具体的にどのような形になるのかイメージしづらいところもある。「新しい豊かさ」の「新しい」とは何なのか。新型コロナウイルス感染症の影響でどのように変化したのか、個人的にもあまり検討がついてない。どのような認識があるのかさらに追及する必要がある。
- 谷口委員：先ほどの岸田委員と同様、新しい豊かさの「新しい」とは何なのか。これまでの「豊かさ」は何だったのかと考えていた。アフターコロナを見据えたというところで掲げた10項目は本当にコロナ禍の影響によるものか。例えば、スマートシティという視点は、逆にクラスターによる感染拡大につながることもある。このコロナ禍では、働き方改革の一環でリモート会議等も実施している。また、キャンプ等の外遊びが流行しつつあるのを見ると、少しずつコロナ禍の遊び方を見つけてきたのかなと思う。実際にこのコロナ禍でみんなが見つけた遊びは「新しい豊かさ」の一つだと思う。
- 田畑会長：非常によい考えだと思う。市民意識調査はコロナ禍に実施されたものだが、できれば定期的に調査し、今後の変化を分析することが大切ではないか。
- 中西委員：「新しい豊かさ」の視点が10個あるが、率直に多いとの印象を受けている。3つ程度に絞り、包括的に目指すものできないか。アフターコロナにおいては日常の生活も大きく変化するため、新しい生活に馴染めない人を救えるような指標となってほしい
- 野口委員：AIに任せるところは任せて、人は人にしかできないことや得意分野を発揮できる社会となってほしい。コロナ禍においては「高島ちぢみ」の服やマスクを購入するなど、地産地消を心掛け、少しでも県内の経済が豊かになればとの想いから、顔の見える方から買うこととしていた。「食べる」、「話す」、「笑う」などの人間らしい暮らしが、デジタル化が進んでいくなかでも大切となる。また、市内では小さな子どもを連れて、若いお母さんたちが集まれる場所が少ない。そのような方達の空き家活用を支援するため、市も支援してほしい。
- 福田委員：コロナ禍で大学の授業などは半年程度遅れている。ベースとなる学校の授業が遅れているなかで「次世代教育」を進めていけるか。年々、特別支援学級の児童が増えている現状を見れば、新たな取り組みの前にすべきことも多いのではないか。

橋本委員：他の委員からの意見にもあったが「新しい豊かさ」の10項目は多い。これらをわかりやすく伝えるためにはアイコンで表現するのは有効だと思う。SDGsのように使ってはどうか。また、前回も述べたがICTの活用は、今後の甲賀市になくてはならないキーワードである。コロナ禍でテレワークやリモート会議など、都市部から離れていてもハンディキャップが無くなった。ピンチをチャンスに変えて、移住定住の取り組みを進めてほしい。このコロナ禍で国際交流の視点が薄れてきているのではないか。甲賀市には多くの外国籍の方がおられる。国際交流の視点は大切にしてほしい。

松村康委員：先般にも市長とコロナ禍における意見交換を実施した。団体ごとの今後の方向性や立場、様々な困りごとを申し上げたので、それらの意見も政策に反映していただきたい。コロナ禍における視覚障がい者の外出は困難な状況にある。一方で、スマートフォンや音声パソコンを使うなど、コロナ禍を契機として使い方を覚えようと日々勉強もされている。私自身も先日、全国大会等にリモートで出席した。約270名の方々がリモートで参加されていた。これらを使いこなす努力と普及促進が必要である。また、行政だけでなく、各地域の民生委員や区長さまなどを中心に、地域で身近な方を助ける「ご近所福祉」の取組が大切である。子ども食堂やお弁当の配達、また、買い物困難者を買い物に連れて行ってくださるボランティアもいる。地域で一緒に暮らせる状況も「新しい豊かさ」ではないか。特に防災に関する情報伝達の遅さに危機感を感じている。昨日、LINEを活用した防災情報の共有を学んだ。非常に頼りになる情報伝達ツールも多くあるため、甲賀市における情報伝達ツールの整備をお願いしたい。視覚障がいであっても、音声で会議などを実施するなど、失敗しながらでも少しずつ練習することが大切である。

丸山委員：市民意識調査においても、コロナ禍で憂うつ感や不安など精神面へ影響を受けている方も多い。「幸せ」とか「優しさ」は、個々人で捉え方が異なる言葉であり、難しさもあるが結局は「やさしさ」という基本が大切ではないか。先ほどの橋本委員の発言のとおり、コロナ禍で最初に派遣切りや雇用調整を受けたのは外国籍の人であった。「新しい豊かさ」にも「誰にも」や「誰もが」との表現があるが、弱い立場の人に対して傾聴や精神的な支えとなったり、経済的な面でも自分の立場に置き換えて検討することが大切である。

安井委員：先ほどの野口委員の意見にもあったが「7. ローカル経済による支えあい」のなかに明確に「地産地消」の視点を表現したり、甲賀市ならではの特性としてジビエやキャンプなどの取り組みを進めてはどうか。私自身は水道工事等の現場での仕事でもありリモートワークなどに適さない仕事である。リモートワークなどができない職種があることも考慮すべきではないか。

松村重委員：今回のコロナ禍では日本人より外国人の離職者が圧倒的に多いと思う。以前のリーマンショック時は日本語がほとんど話せず、雇用保険や失業保険のことを知らない外国人が多く、多くの通訳者が必要となった。今回は比較的雇用保険や失業給付のことをよく知っておられる。日本語や漢字を理解されているが多いのが今回の特徴ではないか。一方で行政のシステムは日本の名前、漢字にしか対応していないので改善が必要などところもある。

小泉副会長：映画やドラマの世界であったパンデミックが世界規模で起き、死のリスクを日常的に実感する事象で、大きな事件である。そのようななか「新しい価値観」や「新しい豊

かさ」の視点は大切となる。ANAや日立金属の赤字など、昨年、好調だった企業が軒並み急速に業績を悪化させている。来年以降の地域経済にも悪影響を与え、さらに悪くなる可能性もある。そのようななか、非正規雇用や外国人労働者、障がい者などを含めた生活弱者を外して「豊かさ」を考えてはいけない。

### **(3) 分野別の施策について**

田畑会長：それでは、資料3について、事務局より説明願う。

事務局：事務局より説明（資料3）

岩倉委員：成果指標の考え方を説明願う。

事務局：成果指標の考え方は、各施策の代表的なものを提示している。成果指標が達成できないから、施策の全てが無意味というわけではないのが前提となる。施策達成の一つの目安となるものである。

田畑会長：他にご質問等あれば挙手願う。

石田委員：今後の審議会はオンラインを活用した開催となるのか。

事務局：今回と同様、オンラインと対面を活用したハイブリッドでの開催を考えている。

石田委員：暫く東京にいるため、リモートだと参加しやすく助かる。

田畑会長：今回の説明を踏まえ、次回以降の議論につなげたい。

## **3. その他**

事務局：次回の審議会は11月中旬の開催を予定している。次回の審議会では今回の資料3を主として、ご意見をいただきたい。「新しい豊かさ」の視点は、ベースとして市長が示されたものであるが、市民それぞれの視点を反映したいと考えている。

## **4. 閉会**

小泉副会長：銀行でもオンラインの会議が進み、直接顔が見えない会議は難しい面もあるが、新しいスタンダードになっていくという意味で慣れていく必要がある。未曾有の危機で大変ななかではあるが、市民や行政の新しいあり方について引き続き、皆さんの知見を発信していただきたい。

以上